

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

March 2014

大雪が、各地に大きな被害を与えています。

東京では、何十年ぶりの大雪で都市機能が止まりかけたみたいですね。今でも関東地区の一部では、救援困難地区があるようで驚きです。今年の十勝は、例年になく雪が少なく畑表面の土が露出しています。しかしながら関東を襲った爆弾低気圧が、雪をドカッと40cm上乘せしてゆきました。その後、暴風がふきあれ、あの雪が跡形もなく吹き飛ばされ、また土がむき出しになっています。十勝の農業国、農家の人は落ち着きません。雪がないとシバシバが土中深くまで浸り込んで、春になってもなかなか畑に入れないからです。また、雪は大切な土壌中の水分含量。春先の作物の植え付け時期に大きく影響します。

先日、十勝の海岸に行ってきました。外気-16℃。なんと海水面が沸騰状態で、ポコポコ小波を立て水蒸気が湧いてきていました。海水面と外気温差から生じる「けあらし」でした。真冬にみられる特徴的な現象です。しかし、道路や家の周りは直射日光を受け、外気はマイナスでもビチャビチャです。車は洗っても、洗っても泥んこ。春はシッカリ近づいてきています。



## NEWSばか読み

- 香川県 オリーブ絞り粕でオリーブ牛  
1/23:ブランド名先行、効果を期待
- 飼料米 全粒粉給与で肉用鶏 カンピロバクター抑制  
1/24:コストのみでなく米効果を期待
- 日豪EPA交渉 牛肉関税ダウン38.5%から30%  
1/27:TPPの前哨戦
- 酪農弱体化への危機 戸数減から飼養頭数の減少  
1/28:日本畜産の根幹が崩れる
- 12月外食産業売上伸長、焼肉17%増  
1/28:良い事だ、どんどん食べよう。
- STAP細胞ネイチャー記載 日本の若い女性研究者快挙  
1/30:すごい畜産にも期待
- 穀物国際市況 中国の動きに敏感に反応  
1/30:中国にかき回されるな
- 医福食農推進 農水省 2/4:北里八雲牛に朗報
- 輸入牛肉 米国産が1.4倍増 豪州産に接近  
2/4:米国の政策ひしひし
- 日本食肉格付協会のBMS判定写真の更新  
2/4:格付けの標準化に期待
- 和牛子牛相場下落 8か月ぶり  
2/5:それでも50万円以上の素牛でどうするの
- 日本産牛肉 メキシコ輸出解禁  
2/7:メキシコ人が和牛…
- 乳牛飼養基準の条例化 1haに2.13頭 別海町  
2/7:アニマルウェルフェア先行

- マルキン12月分発動 交雑7千円ホル45千円  
2/10:和牛なし
- 国際収支 経常黒字大幅縮小 原発停止で燃料コスト高  
2/11:理由はそれかい
- 飼料用稲の立毛放牧検討 2/11:省力化で利用促進
- ローソン スーパー業界に参入  
2/11:業界カテゴリーが複雑に
- 輸入サケサバ高騰  
2/11:日本の買い負け 特徴的現象これで自給率はどのなの
- GE認知症研究を日本拠点で  
2/12:課題先進国 有難くない先進国
- 輸出農産物 5,000億円 畜産品380億円で貢献ならず  
2/13:
- トウモロコシ先物ファンド買強まる  
2/18:食い物をマネーゲームに使うな。
- 北海道電力 再値上げ 原発稼働できずコスト高理由  
2/18:北電は再生エネルギー消極的
- TPP聖域崩壊  
2/19:米国主導明確、官僚政治家 敵前逃亡するな
- 全国子牛市場2013年ランキング  
十勝2位17千頭(4%増)着実伸長2/20:

## 講演お知らせ

畜産学会シンポジウム、特別講演

3月28日(金)筑波大学 15:00 北里大学FSC八雲牧場

日本産肉研究会・日本食肉研究会 合同大会

3月29日(土)筑波大学 10:30

「おいしい赤身肉を生産する」

14:30~赤身肉の流通と消費 花房 俊一

## 東京直近NEWS (2/24ShREPORT)

## ● 経産牛

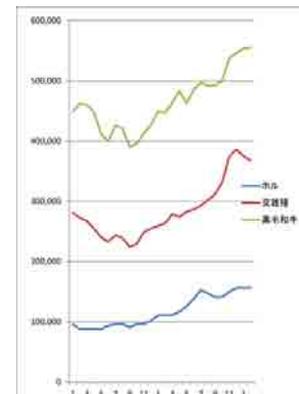
枝相場は依然高値にて推移しており、ホクレン生体市場は1月で今年度最高値更新し2月もさらに高値更新する見込み。需要が供給を上回った状態での引合いにより価格高騰と推測。搾乳については、北海道生乳生産6月以降目標数値に達していないのが現状。酪農家は搾乳して欲しいと思われ市場の出回り頭数が減少していくと思われる。このような状況下により、相場の下げ傾向はみられず更に相場高騰が続くと予測される。正肉の販売に関しては、牛正肉@950程度が天井状況、一部国産から輸入にシフトの末端販売先も発生。パーツ関係、産地側は牛正肉評価高値により、@900以下でのパーツ発生は不可の状況。枝評価@550~600程度でガリも脂ものも価格差少なく、歩留りからするとガリ枝肉の加工の方が高つく。

## ● ホルス

上記経産牛の内容からも、搾乳傾向から種付けは和牛、交雑牛の腹貸しが多くホルの初生が少なく、素牛市場への出回り頭数も少なく、素牛相場は依然高値維持の状況。直近15万以上つけていることから、肥育農家も導入することをためらう状況。経営的にも資金的工面が厳しい。一部の肥育農家は導入しきれず、牛舎を空けている農家も発生している。

販売は停滞傾向から変わらず、枝肉相場は直近大阪市場で下げ相場に転じている点からも販売は低調。モモウデの赤身部位は未だ需要あるも、上位部位に関しては販売止まり価格対応でも流通させるのに一苦労状況。正肉として赤身やや動くも価格は低調で、上位部位の評価とれず正肉販売に関しては、枝肉評価を下回る。全部位全体的に評価下げ傾向により、収支確保に苦慮状態。

## 十勝素牛相場2012~2014



# 畜産学ニュース No.3

今年の帯広は異常に雪が少ないと思っていた矢先、降雪と激しい風に体感温度が下がりました。これだから自然相手の農業は大変なのです。環り協が設立以来目指してきた資源循環型牛肉生産を取り巻く状況にはあまり変化がありません。e-びーふNewsNo.3ではその周辺状況と飼料米の研究発表について述べてゆきます。

## 1. 飼料をめぐる情勢(農林水産省h25.11) 他

(農林水産省h25.11) 他

水の発表では、配合飼料価格は2008年のバイオエタノールブームによりt当たり\67,627に上昇し、その後\50,000台に下落したものの2013年に原料のシカゴ相場の上昇や円安により再び\67,927に上昇し、配合飼料価格安定制度による異常補填となりました。この間中国(C)・インド(I)、ブラジル(B)などの新興国の純資産30億円を超える超富裕層が都市に集中し、今後更に増加すると予想されています。日本のトウモロコシや小麦、大豆等の主要穀物消費量の減少(-8%)とは対照的に新興国のそれは膨らみ、米国輸出よりもブラジル(+180%)やロシア(R;+101%)などの生産量の増加が顕著です。こうして、環り協の資源循環型牛肉生産の取り組みは豚や鶏におけるエコフィードの推進と共にイヤコーンサイレージや牧草の活用、飼料米の利用には反芻動物の特徴を活かした取り組みが必要です。

## 2. エコフィード全国推進シンポジウム

(農林水産省h26.1.15)

東京・中央合同庁舎で開催され、環り協会員の出席者より情報を貰いました。講演者;農水省畜産振興課「エコフィードをめぐる情勢」、百瀬則子氏「食品リサイクルループは命をつなぐ環—スーパーのエコフィード利用の取り組み」、高橋功一氏「エコフィードの傷害事例と先進事例」、大森英之氏「エコフィードと飼料用米(粳米)の混合利用による効果」、農水省畜産振興課「平成26エコフィード緊急増産対策事業の概要」です。エコフィードの原料はパン屑、豆腐粕、売れ残り弁当、規格外エンジン等の食品残渣で、その加工は、混合・乾燥・発酵、リキッド化を指しているようです。即ち、報告事例は専ら、都市近郊のリサイクルセンターで対象は豚が主流です。

## 3. 飼料用米の現状と課題

(国立国会図書館調査と情報#716)

政府が5年後に米の生産調整を廃止し、2014年から飼料用米の増産を図る方針を示してから新聞に俄に飼料用米のことが取り上げられました。減反をしながら米の作付けが出来ることは米農家にとっては好都合ですが、生産収量や流通コストなどの課題もあります。飼料用米の取り組みは1970年代にデントライス計画として給与試験や多収品種の開発などが行われた経緯があり、北海道では「きたあおば」、東北の「ふくひびき」、関東以西の「もみろまん」「たかなり」などが地域により知られています。飼料用米は粳米、玄米、圧ぺんなどの加工により配合飼料の代替え給与されますが、稲ごとのサイレージなどの利用が牛では可能ですが、これは粗飼料としての利用と考えられます。稲発酵粗飼料の作付面積は熊本・宮崎県が最大級で4,000-5,000haです。

# 畜産試験場NEWS

## 黒毛和種去勢牛の牧草サイレージ給与による育成と肥育成績 シリーズ ③

資源循環型牛肉生産シンポジウム 地方独立行政法人総合研究機構畜産試験場牛肉グループ 遠藤 哲代

